ぼくはうそをついた』を読んで

金田小学校　五年　小物　奏心

ぼくもうそをついて、すごくしかられた事があるので、この本に興味をもち読んでみました。

主人公はリョウタでおじいちゃんから聞いた原ばくの話が心に残りました。おじいちゃんのお兄さんのミノルは、原ばくで死んでしまったのです。当時、原ばくで亡くなった人は、小学校のそばの川で、みんなで焼かれたそうです。その中でも何人かは担任の先生と一緒に少しでもい品が残るように、服の裏に書かれた名前の部分を切り取ったりしたそうです。ぼくなら、その時に何ができるのか？たとえ先生といても、それほどの光景を前にすると強がりでも勇気さえ出ない気がします。

そして、リョウタはミノルの気持ちを分かりたく原ばくドームに行きました。本当にここに原ばくが落ちたのかなとリョウタは思いました。ぼくならきっと想像を超えたきょうふに押しつぶされていたと思います。

リョウタは原ばくドームの修復を見て計りしれない情熱を感じて、伝えたかったものを間ちがえずに受け取らなければならないと感じました。ぼくもその思いに感動し、いつかは実際にその場所に立ち、人の思いに触れたいと決めました。

折りづるをかかげた像のつるは病気の回復を願って折る事と平和を祈って折る事だそうです。ぼくも平和を願うとき、折りづるを一羽でも多くかかげたいです。戦争で亡くした息子を探していたおばあさんを見つけた時にリョウタは息子のショウタの代わりになりました。初めてぼくは、こんな思いやりや、優しさが感じられる嘘のカタチを知りました。自分にはなかった感覚だったのでおどろきました。

この本を読んで原ばくはすごくこわいものだと知りました。かく兵器を持った国もあり、持たない国もある今、すべてのかくがなくなり平和になってほしいです。そのために、何をすべきか？

作者の言葉の「かの国の終わりの見えない侵略戦争が激化するニュースに心痛めた日」に共感しました。戦争のニュースを見ると、今もぼくと同じような子供たちがぎせいになり、たくさんの命を落としていることにショックを受け、とても悲しい気持ちになります。この現実に目をそむけたくなりますが、世界中が平和になるためには、作者の祈りと共に、この事実を多くの人に伝えていくことが令和に生きるぼくたちができる第一歩だと思いました。

聞き上手のすすめ

八雲東小学校　六年　青井　翔大

コミュニケーション力をつけたい。そんな僕が見つけた本が「人は聞き方が９割」だ。

僕はある日、書店で本を買おうとしていた。その時にこの本を見つけた。僕はその時題名に惹かれて読んでみたくなった。なぜなら、たまに人の話を聞き流してしまうことがあり、この本を読んだら人に好かれるような聞き方のコツが身につくと思ったからだ。

この本には、聞き方や話し方を始めとする上手なコミュニケーションの仕方が書いてある。例えば、なぜ人の話を聞くのが上手な人がうまくいくのかや、人に好かれる聞き方などだ。また、筆者の体験と重ねて説明されていて分かりやすい。この本は聞き方を磨くと良いことがたくさんあるという事を教えてくれる。

僕が驚いた事は、聞く側には話す側よりたくさんのメリットがあるということだ。例えば語彙力が低くてもうまくコミュニケーションが取れたり、言葉数が少なくても第三者から見た時に多く話している人より評価されやすかったり、沈黙を恐れる心配が無くなったりするということが挙げられる。特に、聞く人の方が、話している人よりも評価される可能性が高い事が興味深いと思った。なぜなら、今まで良い話や勉強になる話をスラスラ言える人が凄いと思っていたけど、この本を読んでそうとは限らないと知ったからだ。

また、聞く時に、笑顔やリアクションを入れたり、うなずいて聞いたりすると、話す人が話しやすいということに納得した。なぜなら、僕が友達に休日の話をしたときに、真顔で「ふーん」みたいな表情で聞いているのを見て、「あまり面白くなかったのかな？」と思い、不安になったからだ。逆に家で学校の話をしている時にお母さんやお父さんが「へぇー」とか「そうなんだ」と言ってくれたり、うなずいてくれたりした時は、「話してよかったな」と思い、とても嬉しかった。

僕はこれまでに笑顔やリアクションを入れたり、うなずいて聞いたりすることを意識していなかったが、この本を読んで意識していきたいと思った。

この本を読んで、良いコミュニケーションを取るためには話し方だけではなく、聞き方も大事だということを知った。僕は、コミュニケーション力にあまり自信がなかったが、聞き方を少し意識することでよくなると分かった。これは急にペラペラと話すことや、面白いエピソードを作ることなどと比べたらだれでもすぐに簡単にできることだ。とはいえ、今でもまだ聞き流してしまうことがあるので、少しずつ直していき、聞き上手になりたい。